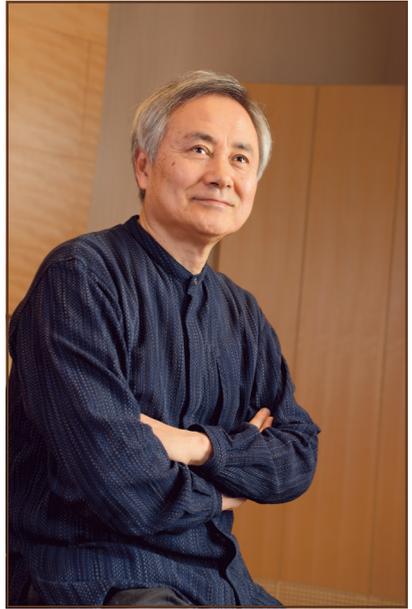


音楽監督から皆様へ

岡山 潔 (ヴァイオリニスト)

東京藝術大学大学院を修了後、ドイツ政府給費生としてハンブルク音楽大学に学ぶ。1971年より13年間、西独の首都ボンへのベートーヴェンハレ管弦楽団の第1コンサートマスターを務め、その間、各地でソリストや室内楽奏者としても活躍し、文化面においての多大な貢献から、1984年にドイツ政府より功労十字勲章を授与されている。1984年、読売日本交響楽団の第1コンサートマスターとして迎えられ、帰国した岡山 潔は、精力的な演奏活動と並行して、東京藝術大学での教育活動や音楽プロデューサーとしての活動にも情熱を注ぐ。これまでにJTが育てるアンサンブルシリーズのプロデューサーやアフィニス音楽祭音楽監督を歴任。東京藝術大学とウィーン音楽演劇大学の共同プロジェクトリーダーとして世界に向けて発信した、ハイドン弦楽四重奏曲全曲録音“haydn total”は高い評価を受けている。現在は神戸市室内合奏団の音楽監督、及びリゾナーレ音楽祭、TAMA音楽フォーラム、真駒内六花亭ホール、鶴川ボプリホールのプロデュースなど、意欲的な活動を続けている。また、海外のアーティストたちとのパイプも太く、今後のふきのとうホールでのコンサートプランニングに大きな期待が寄せられている。東京藝術大学名誉教授、ウィーン音楽演劇大学客員教授。



究極の演奏空間、ふきのとうホール誕生！

本年七月、世界の第一線で活躍する演奏家たちによって、一か月間に亘り行われた「ふきのとうホールオープニング・フェスティバル」は、連日、詰めかけた聴衆を完全に魅了した。その演奏を見事にサポートしたのが、このホールに宿った素晴らしい音響である。

三日間、ふきのとうホールで演奏した世界のモザイク・カルテットは、「これぞアーティストの表現意欲にインスピレーションを与えてくれる理想の室内楽ホール」と絶賛。

また、このホールの当初からの重要な構想であった、将来の発展が大いに期待できる弦楽四重奏とピアノ三重奏の若手二組を、ふきのとうホール・レジデンスアンサンブルとして迎えた。今後、彼らが優れた音響環境の下で集中したりハーサルや数々のコンサートの経験を重ね、豊かに成長していく姿を聴衆の皆様と共に見守っていきたい。

世界の舞台へと羽ばたく音楽家を育てること、それがふきのとうホールの夢である。

2015年11月
ふきのとうホール音楽監督

岡山 潔